

京都観光における信仰とレジャーに関する試算

井 口 富 夫

目次

- I はじめに
- II 京都観光の変遷
- III 推計モデルと統計データ
- IV 推計結果と解釈
- V 結びにかえて
- VI 附表：基礎統計資料

I はじめに

京都は、「千年の都」や「歴史都市・京都」といったキャッチフレーズでPRされ、日本で有数の観光地であることは周知のとおりである。しかし、京都のあらゆる観光施設に、さらに四季を通じて多くの観光客が押し寄せているのではない。観光客は、特定の観光施設、特定の季節に偏って、やって来る。清水寺には、少し以前までは京都を訪れた3人のうち1人が訪れていた。最近は少し減少し、5人に1人の割合で清水寺を訪問している。外国人に限れば、京都を訪問した外国人の約8割が、清水寺を訪れる。他方、訪問者が少ないため、京都市が発行する『京都市観光調査年報』に統計データが公表されない観光施設が、圧倒的に多数存在する。

本稿の目的は、京都の特定の観光施設に多くの訪問者があるのは何故なのかを明らかにする手掛かりを見つけることである。以下、第2節では京都観光の変遷を概観する。第3節は京都の観光施

設を訪れる観光動機を明らかにするための推計モデルと、推計に用いる統計データの説明を行なう。第4節においては推計結果とその解釈を行なう¹⁾。

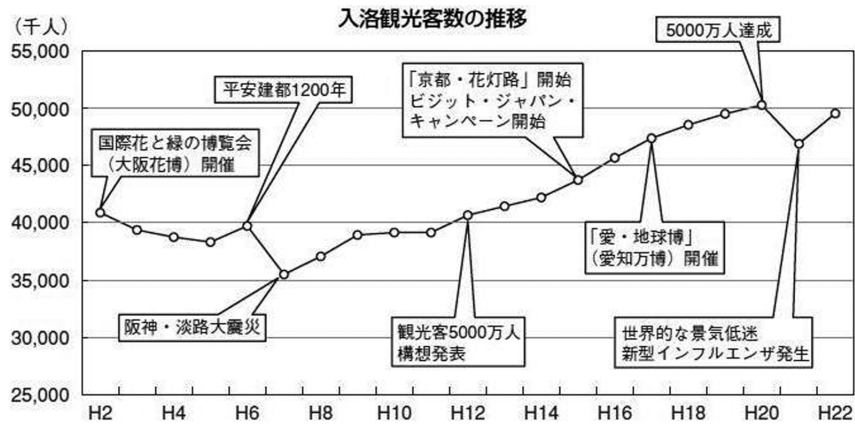
II 京都観光の変遷

1 京都観光の推移

京都市が発行する『京都市観光調査年報』に基づきながら、京都観光の推移をみることにする²⁾。『京都市観光調査年報』によれば、京都市は毎年5000万人前後の来訪者がある観光都市である。外国からの観光客が約100万人あるため、大雑把な言い方をすれば、日本の約3人に1人が毎年、京都を訪れている計算になる。第1図は、その推移を示している。阪神・淡路大震災の発生や新型インフルエンザの風評被害による一時的な減少があるものの、京都市を訪れる観光客は、順調に伸びてきている。

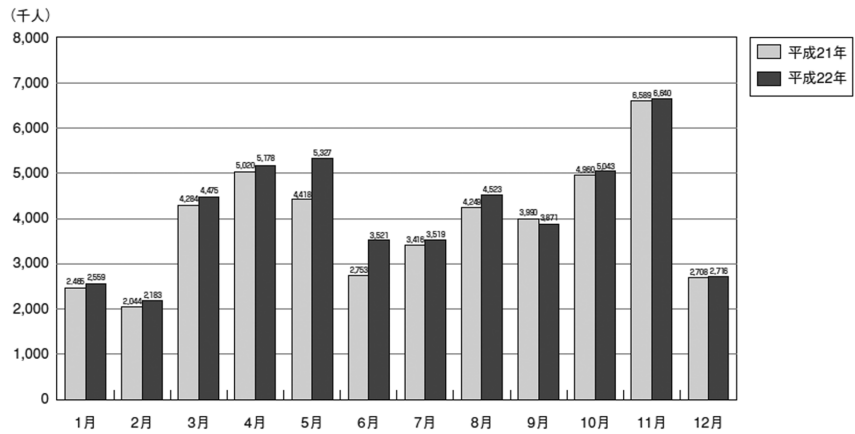
第2図は、京都市の月別観光客数を示している。春と秋に偏っている。とりわけ、秋の紅葉にシーズンが最も多くの観光客がある季節である。平成5年(1993)の秋から始まったJR東海の「そうだ京都、行こう」キャンペーン以前では、京都観光の最大のピークは、春の桜のシーズンであった。平成9年秋のキャンペーンで、JR東海が東福寺を取り上げ、それ以降は秋の紅葉シーズンが京都の最も「にぎわう」季節になったといわれている。

第1表は、京都市を訪れた観光客の利用交通機関と宿泊施設の区分を示している。JR利用者だ



第1図 京都市の観光客数の推移

出所：京都市産業観光局『京都市観光調査年報』より転載。



第2図 京都市の月別観光客数

出所：第1図と同じ。

第1表 京都市を訪れた観光客数の推移

		昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成22年
		(1983年)	(1988年)	(1993年)	(1998年)	(2003年)	(2008年)	(2010年)
利用交通機関別内訳 (%)	J R	20.5	22.1	25.0	29.2	33.3	34.9	34.6
	J R 以外の鉄道	29.6	26.9	25.0	30.3	26.4	26.6	27.2
	バス	9.5	8.9	8.1	7.9	10.2	9.5	9.3
	乗用車	40.4	42.1	41.9	32.6	30.1	29.0	28.9
宿泊者の宿泊施設別内訳 (%)	ホテル	39.5	41.6	49.0	62.9	71.5	71.2	71.7
	旅館	25.6	28.9	29.7	19.6	17.4	16.6	17.1
	その他	34.9	29.5	21.3	17.5	11.1	12.2	11.3
観光客数 (万人)		3,799	3,872	3,829	3,897	4,374	5,021	4,956

出所：京都市産業観光局『京都市観光調査年報』より作成。

第2表 鉄道駅の乗降客の推移

（単位：％）

	昭和 60 年度	平成 7 年度	平成 13 年度	平成 20 年度
	(1985 年度)	(1995 年度)	(2001 年度)	(2008 年度)
J R ・地下鉄、京都駅 a	56, 107	74, 923	81, 730	85, 814
京阪、三条駅	16, 195	10, 557	7, 727	6, 707
阪急、河原町駅	28, 322	25, 325	19, 865	17, 457

注：a＝JR 東海の乗降客数は含まれていない。

出所：運輸政策研究機構『都市交通年報』（運輸政策研究機構発行。以前は国土交通省総合政策局監修）より作成。

けが増加している。宿泊施設は、旧来の旅館からホテルへウエイトが移っている。

第2表をみると、京都駅の乗降客数が増加しているのに対し、京阪三条駅と阪急河原町駅の乗降客数は減少している。

2 京都観光の類型分けと観光施設

『京都市観光調査年報』では、京都市に来る約5000万人のうち、近年は5分の1の人が清水寺を訪れている。（10年ほど以前は、3人に1人の割合で清水寺を訪れていた）2010年の同調査年報によれば、平安神宮は9位で6%に相当する訪問者数があったことが分かる。平安神宮は、1895年（明治28年）に創建されており、既に都が東京へ移ってから30年近く経っている。伏見稲荷大社へも多くの観光客が訪れている。『京都市観光調査年報』では、お正月の初詣の人出は京都への訪問者にカウントしないことになっているため、伏見稲荷大社は市内訪問地の上位にはランクされていない。伏見稲荷大社は、711年（和銅4年）の創建であり、794年の平安遷都より以前から現在地にある。しかも、平安京の外側に位置する。しかし、平安神宮も伏見稲荷大社もいずれも、多くの観光客には「千年の都」京都を代表する観光地として広く受け止められているようである。同様の意味での京都の観光地は、平安神宮と伏見稲荷大社に限られるのではなく、他にも多数存在すると思われる。

「歴史都市」京都は、日本文化を凝縮した典型的な地域であるといわれる。神社仏閣が多く立地する都市は、日本全国をみれば多数存在する。京都の最大の特徴は、単に多数の神社仏閣が存在するだけではなく、相対的に狭い地域に密集して立

地するとともに、宗教教団の本部が市内に置かれていることである。宗教教団と並んで、茶道や華道、香道といった分野の家元制度の本部が、京都に集まっている。これらが、皇室文化・公家文化と関係をもちながら、「わび、さび、みやび」といった「京都らしさ」を醸し出している。

第3表は、京都市内の主要な訪問地のランキングである。特定の観光施設とその周辺に、多くの観光客が殺到することによる市民生活への弊害が指摘された。そのような状況を解消するために、京都市は観光客の分散を目的とした施策を講じてきたが、第3表をみれば京都市の目的はある程度達成されたと評価すべきであろう。

京都の主要な観光スポットの多くは、歴史的な価値のある神社仏閣である。換言すれば、宗教施設が京都の観光を支えていることになる。京都の多くの宗教施設を訪れる人たちの目的は何であろうか。このような調査は、皆無に等しい。津田・前田・細川〔2005〕には、西本願寺と清水寺の来訪目的を調べた結果が紹介されている。西本願寺は宗教目的が多く、清水寺はレジャーが中心となっている。

平成22年の京都市の観光客数は、第1表のように4956万人であった。この年に、清水寺を訪れた人は21%であり、西本願寺を訪れた人は3.0%である（第3表を参照）。4956万人に21%を乗じると、平成22年の1年間に清水寺を訪れ人数が1040万人となる。そのうちの58.9%がレジャー目的であったため、計算上は613万人がレジャーとして清水寺を訪れ、427万人が宗教目的であったとなる。同様にして、西本願寺へは150万人が訪問し、そのうち宗教目的が91万人、レジャー目的が59万人となる。

第3表 京都市内の主要訪問地上位10か所の推移（平成2年～22年）

	平成2年		平成12年		平成22年	
1	清水坂周辺	35.9	清水寺	33.0	清水寺	21.0
2	金閣寺	27.1	嵐山	17.0	嵐山	16.1
3	嵐山	23.1	金閣寺	14.7	金閣寺	11.3
4	二条城	20.2	銀閣寺	14.4	二条城	9.0
5	銀閣寺	19.2	南禅寺	13.2	銀閣寺	8.9
6	平安神宮	17.8	八坂神社	12.1	南禅寺	8.4
7	哲学の道	11.9	鞍馬・貴船	11.5	八坂神社	7.7
8	大原	10.1	哲学の道	11.2	高台寺	6.7
9	祇園・八坂神社	9.9	平安神宮	11.2	平安神宮	6.0
10	東・西本願寺	9.9	嵯峨野	10.3	嵯峨野	5.6
参考			西本願寺	3.2	西本願寺	3.0

注：1人の観光客が複数の施設を訪問すると重複して数えているため、全体で100%にはならない。

出所：第1表と同じ。

第4表 西本願寺と清水寺の来訪目的（単位：%）

	参拝・信仰	レジャー・観光	その他
西本願寺	60.5	36.4	3.1
清水寺	35.1	58.9	5.9

出所：津田・前田・細川〔2005〕より作成。

3 世界基準と京都観光

平成6年（1994年）に、「古都京都の文化財」として、京都市・宇治市・滋賀県大津市にある以下の17の寺社などから構成され文化財群が、ユネスコの世界遺産（文化遺産）として登録された。日本では5件目の登録であった。二条城以外は、すべて神社仏閣である。宗教と京都観光が如何に密着したものであるかを示す分かりやすい事例である。

賀茂別雷神社（上賀茂神社）、賀茂御祖神社（下鴨神社）、教王護国寺（東寺）、清水寺、延暦寺、醍醐寺、仁和寺、平等院、宇治上神社、高山寺、西芳寺（苔寺）、天龍寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）、龍安寺、西本願寺、二条城

フランスのミシュラン社が出版するレストランとホテルのガイドブックである『ミシュランガイ

ド』（英語名：the Michelin Guide。フランス語名：le Guide Michelin）として、『ミシュランガイド京都・大阪2010』（英語版／日本語版）が、平成21年（2009年）に出版された。京都の3つ星レストランは、『菊乃井本店』（京都）、『吉兆 嵐山本店』（京都）、『千花』（京都）、『つる家』（京都）、『瓢亭』、『未在』（京都）の6軒であった。さらに、13軒が2つ星に、66軒が1つ星に評価された。掲載店はほとんどが日本食レストランで、京都では97%に達した。

ユネスコの世界遺産への登録や、ミシュランガイドブックに掲載されることによる影響がどの程度のものであるかは、現在の時点では明らかにされていないが、京都へ外国人観光客が数多く訪れるだけでなく、世界的な基準による格付けが、京都の観光にさまざまな影響を及ぼす時代になったことは確かなようである。

III 推計モデルと統計データ

1 推計モデルと仮説

京都の主要な観光スポットである歴史的に価値のある神社仏閣を訪れる人たちは、どのような目的で訪問しているのであろうか。ここでは、2つの要因からなる推計モデルを考えた。訪問目的を

構成する要因として、信仰とレジャーに限った。

京都は観光地であるため、レジャーとして京都にやって来て、各観光施設を訪問すると推測することは不自然ではないであろう。しかも、京都の多くの観光施設が宗教施設であることを考え合わせると、訪問目的の一端は信仰にあるとみなすことも当然であろう。そこで、次の2点を仮説として立てることにした。

- ・信者等が多い宗教施設は訪問者が多い
- ・観光施設として広く知られている施設は訪問者が多い

2 統計データ

京都市内の観光施設への訪問者数は、『京都市観光調査年報』に全体の割合として公表されている。本稿でも、その数値をそのまま採用した。対象年次は、平成13年から22年までの10年間である。訪問者数の数値は、10年間に公表された最大の年次の数値と、最大3年間の数値の平均値の両者を用いた。

宗教施設の信者数は、各宗教施設が所属している教団の信者数等とした。文化庁文化部宗教課『宗教統計調査結果—平成22年12月31日現在—』に公表されている教師数と信者数の合計を用いた。なお、仁和寺の信者数は、平成22年の数値が公表されていないため、平成21年12月31日現在の数値である。同様の理由から、東寺の信者数は、平成7年12月31日現在の数値である³⁾。華厳寺（鈴虫寺）は臨済宗の単立寺院である。筆者の想像では、

小規模団体であるためと思われるが、文化庁の資料には数値が記されていない。そのため、華厳寺の教師数と信者数は、臨済宗で信者数が最少である臨済宗國泰寺派の教師数と信者数を使用した。

伏見稲荷大社、北野天満宮、下鴨神社、平安神宮、八坂神社、貴船神社の教師数と信者数も公表されていない。伏見稲荷大社は単立の独立した神社である。しかし、全国の多くの稲荷神社は神社本庁に属している。それ以外の5社は、神社本庁の別表神社である。そのため、各教団の宗教団体数が神社本庁の団体数に占める比率を用いて、各教団の信者数と教師数を推計した。

第5表にあるように、平成22年末の神社本庁の宗教団体数は79,059である（文化庁資料より）。たとえば、伏見稲荷大社の場合、稲荷信仰に属する宗教団体数は2,970であり（岡田・加藤 [2007] より）、神社本庁の宗教団体数に対する比率は、3.76%である。伏見稲荷大社の信者数は、神社本庁の信者数92,614,395人に3.76%を乗じて算出した。他も同様の方法で算出した⁴⁾。

観光施設として広く知られている度合いを示すデータとして、旅行ガイドブックでの紹介の程度を採用した。具体的には、旅行ガイドブックが紹介する各施設紹介の紹介箇所数と紹介スペースの大きさである。本稿では、京都の書店において販売数が最も多い京都に関する旅行ガイドブックである3冊を採用した。『詳細地図で歩きたい町京都』（JTB パブリッシング）、『るるぶ京都』JTB パブリッシング、『まっぷる京都』（K&B パブリッシング）である。各誌の発行時期が平成24年

第5表 信者数と教師数の推計

	神社数 (宗教団体数)	教師数	信者数	教師数+信者数
神社本庁	79,059 ^a	21,718 ^a	92,614,395 ^a	92,636,113 ^a
伏見稲荷大社	2,970 ^b	816	3,479,234	3,480,050
北野天満宮	3,953 ^b	1,086	4,630,778	4,631,864
下鴨神社	277 ^b	76	324,494	324,570
平安神宮	4,425 ^b	1,216	5,183,707	5,184,923
八坂神社	2,299 ^b	632	2,693,185	2,693,816
貴船神社	463 ^b	127	542,386	542,513

注：a = 文化庁資料より、b = 岡田・加藤 [2007] より、無印 = 本稿で推計。

出所：岡田・加藤 [2007]、文化庁文化部宗教課『宗教統計調査結果—平成22年12月31日現在—』より作成。

であるため、そこに掲載された内容は、その少し以前であると考えられる。

本稿の計算で用いるサンプル数は、全体で31となった。そのうち、宗教施設は27である。ただし、来訪者比率の最大3年間平均値については、全体のサンプル数が22、そのうち宗教施設が18となった。

IV 推計結果と解釈

1 相関分析の結果

最少二乗法でもって、相関分析と回帰分析を行った。第6表から第9表までが、相関分析の結果である。第6表と第7表が、来訪者比率を最大値で測った数値を採用した結果であり、サンプル数は宗教施設のみの場合が27、非宗教施設も含めた場合が31である。相関分析の結果から、京都市内の各観光施設への来訪者数と係わりが強い変数はどれかを明らかにする。

得られた結果は、次のようである。教師数も、信者数も、これら両者の合計値も、すべて来訪者比率（最大値）とは、統計的に有意な結果は得られない。しかも、相関係数の符号はマイナスであり、仮説とは異なった傾向にある。ガイドブック

掲載は、箇所数でも掲載面積でも、仮説通りにプラスの符号で、しかも統計的に有意な結果になっている。

第8表と第9表は、来訪者比率を最大3年平均値で測った数値で測るために、サンプル数が減少している。宗教施設のみの場合が18、非宗教施設も含めた場合が22である。得られた結果は、第6表及び第7表の結果とほぼ同様である。

以上の相関分析の結果から、京都市内の各観光施設への来訪者数との係わりにおいては、旅行ガイドブックの影響が極めて強く、宗教団体の規模で代表される「宗教の力」はほとんど影響力がないことが分かる。

2 回帰分析の結果

次に、京都市内の各観光施設への来訪者比率（最大値、最大3年平均値とも）を説明する要因を明らかにするために、来訪者比率を被説明変数とし、説明変数に宗教要因とレジャー要因を用いた回帰分析の結果を紹介することにする。

第6表から第9表までの結果から、宗教要因の変数である、信者数と教師数および、その合計人数は、互いに高い相関関係にある。多重共線性から生じるバイアスを避けるために、宗教要因を

第6表 相関分析の結果：全体を対象（サンプル数＝31）

	来訪者比率 (最大値)	教師数	信者数	教師数＋信者数	ガイドブック 掲載箇所数	ガイドブック 掲載面積
来訪者比率（最大値）	1.0000					
教師数	-0.2667	1.0000				
信者数	-0.2642	0.7638 ***	1.0000			
教師数＋信者数	-0.2644	0.7649 ***	1.0000 ***	1.0000		
ガイドブック掲載箇所数	0.5699 ***	-0.2310	-0.3129	-0.3129	1.0000	
ガイドブック掲載面積	0.6703 ***	-0.3924 *	-0.4591 ***	-0.4592 **	0.7636 ***	1.0000

***：t検定両側1%水準で有意。

**：t検定両側5%水準で有意。

*：t検定両側10%水準で有意。（以下の諸表でも同じ）

第7表 相関分析の結果：宗教施設のみを対象（サンプル数＝27）

	来訪者比率 (最大値)	教師数	信者数	教師数＋信者数	ガイドブック 掲載箇所数	ガイドブック 掲載面積
来訪者比率（最大値）	1.0000					
教師数	-0.2752	1.0000				
信者数	-0.2763	0.7507 ***	1.0000			
教師数＋信者数	-0.2765	0.7519 ***	1.0000 ***	1.0000		
ガイドブック掲載箇所数	0.5986 ***	-0.2075	-0.2871	-0.2871	1.0000	
ガイドブック掲載面積	0.7477 ***	-0.3732	-0.4338 **	-0.4340 **	0.7981 ***	1.0000

表す変数として信者数と教師数の合計値を採用した。ガイドブック掲載面積は、宗教要因の変数と高い相関関係にあるが。ガイドブック掲載箇所数は相関関係が低い。そのため、回帰分析においては、ガイドブック掲載箇所数を採用した。その結果、回帰分析で用いる推定式は、次の第1式のようになった。

$$\begin{bmatrix} VMAX \\ VTOP3 \end{bmatrix} = f(Religious, Leisure) \quad (1)$$

記号：VMAX=来訪者比率（最大値）

VTOP3=来訪者比率（最大3年平均値）

Religious=信者数と教師数の合計値

Leisure=ガイドブック掲載箇所数

得られた結果は、第10表のようである。信者数と教師数の合計値は、統計的に有意でない上に、回帰係数が非常にゼロに近い値で、しかも符号はマイナスである。宗教要因は、京都の観光施設の訪問者数に及ぼす影響は極めて小さい。他方、ガイドブック掲載箇所数は統計的に有意であった。

第8表 相関分析の結果：全体を対象（サンプル数=22）、来訪者比率3年間データが入手できないケースを除く

	来訪者比率 (最大値)	来訪者比率 (最大3年平均値)	教師数	信者数	教師数+ 信者数	ガイドブック 掲載箇所数	ガイドブック 掲載面積
来訪者比率（最大値）	1.0000						
来訪者比率（最大3年平均値）	0.9959 ***	1.0000					
教師数	-0.3249	-0.3054	1.0000				
信者数	-0.3094	-0.2785	0.7344 ***	1.0000			
教師数+信者数	-0.3096	-0.2787	0.7356 ***	1.0000 ***	1.0000		
ガイドブック掲載箇所数	0.7373 ***	0.7496 ***	-0.2180	-0.3077	-0.3077	1.0000	
ガイドブック掲載面積	0.6684 ***	0.6633 ***	-0.4195 **	-0.5295 ***	-0.5296 **	0.7861 ***	1.0000

第9表 相関分析の結果：宗教施設のみを対象（サンプル数=18）、来訪者比率3年間データが入手できないケースを除く

	来訪者比率 (最大値)	来訪者比率 (最大3年平均値)	教師数	信者数	教師数+ 信者数	ガイドブック 掲載箇所数	ガイドブック 掲載面積
来訪者比率（最大値）	1.0000						
来訪者比率（最大3年平均値）	0.9971 ***	1.0000					
教師数	-0.3746	-0.3600	1.0000				
信者数	-0.3772	-0.3527	0.7135 ***	1.0000			
教師数+信者数	-0.3775	-0.3530	0.7148 ***	1.0000 ***	1.0000		
ガイドブック掲載箇所数	0.8170 ***	0.8340 ***	-0.1857	-0.2731	-0.2731	1.0000	
ガイドブック掲載面積	0.7911 ***	0.7930 ***	-0.4085 *	-0.5239 **	-0.5240 **	0.8293 ***	1.0000

第10表 回帰分析の結果

被説明変数	定数項	教師数+信者数	ガイドブック 掲載箇所数	
来訪者比率 (最大値)	-0.1397	-0.0000001317 (-0.3341)	1.1073 *** (3.1544)	全体を対象（サンプル数=31）
	-0.2254	-0.0000000851 (-0.1880)	1.1626 *** (3.1281)	宗教施設のみを対象（サンプル数=27）
来訪者比率 (最大3年平均値)	-3.3078	-0.0000000466 (-0.1100)	1.6399 *** (4.6074)	全体を対象（サンプル数=22）、来訪者比率3年間データが入手できないケースを除く
	-3.4003	-0.0000003464 (-0.9400)	1.8230 *** (5.5381)	宗教施設のみを対象（サンプル数=18）、来訪者比率3年間データが入手できないケースを除く

（ ）内の値：t 値

V 結びにかえて

本稿では、京都を訪れる観光客が、なぜ特定の施設に集中して訪問するのか、その要因を明らかにすることを目指した。統計数値を用いた実証分析の結果から分かったことは、京都を訪れる多くの観光客は、旅行ガイドブックを重要な情報源としており、そこから得られた情報を基に、京都観光を行なっている、ということであった。

京都市内の主要な観光施設は神社仏閣であり、しかも本山ないし本社といった全国組織の宗教教団の本部機能を果たしている。そのため、教団の規模や組織力が、神社仏閣の訪問者数に何らかの影響を与えていると思われるが、本稿の計算結果からは、そのような影響は何ら見られなかった。すなわち、京都観光は、信仰よりも圧倒的にレジャーの要素で構成されていると判断すべきであろう。

本稿では、初歩的な推定手法・モデルで実証分析を試みた。今後は、それらをより精緻な内容にするとともに、用いる統計データの改良も必要であろう。たとえば、京都市内の神社仏閣には、国宝を含む膨大な国指定の重要文化財が所蔵されている。史跡・名勝も多数ある。これらに関心を持って京都観光に来る人たちが多くいる。文化財に関連した情報をモデルに組み込む必要がある。

注

- 1) 京都観光に係る諸研究を参考文献に列举した。
- 2) 京都観光に関する統計データは、平成22年度までは、『京都市観光調査年報』として発行されていた。そこには、京都市内の観光施設を訪れる観光客の割合も公表されている。しかし、平成23年度からは、『京都市観光総合調査』となり、本稿のような研究にとっては使用価値が低下してしまった。全国各地の観光客数は、各地元自治体から公表されているが、それらの数値は、どの程度現実の実態を的確にとらえているかを疑う関係者が多くいる。しかし、そのような関係者においても、京都観光に関する統計データの信頼性は非常に高い。
- 3) 文化庁文化庁宗教課『宗教統計調査結果—平成22年12月31日現在—』では、東寺真言宗の信者数は未公表であるが、教師数が平成22年に240人であったと記されている。同書の平成7年の東寺真言宗の教師数は247人である。単純に教師数が増加すれば、信者数も増加すると考えると、平成2年の信者数を用いることは不適切であるかも知れないが、本稿では大差はないと判断した。
- 4) 伏見稲荷大社等に所属する宗教団体数は、岡田・加藤 [2007] に記載されている数値を採用した。岡田・加藤 [2007] の概要は、『朝日新聞』2007年2月22日（木）、第33面文化欄で紹介されている。

参考文献

- 上田正昭監修 [2002]、『京都学を学ぶ人のために』世界思想社。
- 江尻修誠 [1991]、『京都の観光地を考える — I、嵐山ゾーン』『地域と経済』第61号。
- 江尻修誠 [1992a]、『京都市における観光産業の現況と今後の問題点』『地域と経済』第63号。
- 江尻修誠 [1992b]、『京都の観光地を考える — I 嵐山ゾーン』『地域と経済』第61号。
- 岡田荘司・加藤直弥編 [2007]、『現代・神社の信仰分布—その歴史的経緯を考えるために』文部科学省21世紀COEプログラム國學院大学「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」。
- 奥村清治 [1992]、『京都の観光地を考える—そのII—清水寺かいわい—』『地域と経済』第63号。
- 河村誠治 [2004]、『観光経済学の原理と応用』九州大学出版会。
- 米浪信男 [2004]、『観光・娯楽産業論』ミネルヴァ書房。
- 京都府教育委員会 [2000]、『京都府文化財総合目録』京都府。
- 京都市企画部庶務課・京都市総務部庶務課 [1941]、『京都市政史』京都市。
- 京都市消防局 [2002]、『京都の文化財』京都市。
- 久山喜久雄 [1991]、『古都の杜から見たリポート』『地域経済』第317号。
- 沢健一監訳 [2001]、『観光の経済学』学文社。
- 津田康英 [1987]、『観光産業としての宿泊業をめぐる現状 — 京都府、奈良県、和歌山県の比較から』『奈良県立商科大学研究季報』第8巻、第2号。
- 津田充春・前田亜見・細川大輔 [2005]、『京都観光における清水寺と西本願寺』『龍谷大学経済学論集、学生論集』第47号。
- 仲田直 [1993]、『京都のまちの活性化と観光産業 — 伝統産業振興の視点から』『京都産業大学国土利用開発研究所紀要』第14号。
- 日本都市学会編 [1985]、『都市と高速交通、日本都市学会年報』第18巻、ぎょうせい。
- 芳賀徹 [2001]、『京都学への提言』『都市研究京都』第13号。
- 長谷政弘編 [2003]、『新しい観光振興：発想と戦略』同文館出版。
- 橋爪紳也 [1997]、『地域活性化型テーマパーク』の未来像 — あるいは集客装置の「公共性」をめぐる — 『都市問題研究』第49巻、第2号。

細川大輔 [2005]、「京都の寺院研究」『龍谷大学経済学論集、学生論集』第47号。

松本和良 [1985]、「新幹線都市と地方都市圏——新潟県内112市町村の因子分析に基づいて——」日本都市学会編 [1985]。

三村浩史・西山徳明 [1987]、「観光とまちづくり」『都市問題研究』第39巻、第11号。

山上徹 [2000]、『京都観光学』法律文化社。

山上徹編 [2001]、『おこしやすの観光戦略—京都学の構築にむけて』法律文化社。

山上徹 [2002]、『観光の京都論』学文社。

山上徹・堀野正人編 [2003]、『現代観光へのアプローチ』白桃書房。

匿名 [1992]、「覆面座談会、京都観光の活性化」『地域と経済』第61号。

VI 附表：基礎統計資料

	来訪者比率 (最大値)	来訪者比率 (最大3年平均値)	教師数	信者数	教師数＋ 信者数	ガイドブック 掲載面積	ガイドブック 掲載箇所数	宗派と宗派内の格式（寺格）	正式名称
	%	%	人	人	人	平方メートル	箇所		
清水寺	29.8	27.7	8	430,860	430,868	7,377	15	北法相宗大本山	音羽山清水寺
銀閣寺	15.3	13.3	85	6,373	6,458	3,875	7	臨済宗相国寺派大本山相国寺の山外塔頭	東山慈照寺
金閣寺	13.5	12.6	85	6,373	6,458	4,851	10	臨済宗相国寺派大本山相国寺の山外塔頭	北山鹿苑寺
南禅寺	12.9	11.2	390	41,478	41,868	1,378	6	臨済宗南禅寺派大本山	瑞龍山南禅寺
高台寺	10.5	9.8	76	6,250	6,326	1,441	8	臨済宗建仁寺派の寺院	鷲峰山高台寿聖禪寺
八坂神社	8.8	8.4	632	2,693,185	2,693,816	473	5	神社本庁の別表神社、「八坂（弥栄）」を社名とする神社および素戔嗚尊（スサノオノミコト）を祭神とする関連神社（約2,300社）の総本社	八坂神社
鞍馬・貴船	8.7	7.1	165	600,336	600,501	2,171	6	鞍馬弘教総本山、貴船神社＝神社本庁の別表神社	鞍馬山鞍馬寺、貴船神社
三十三間堂	8.7	7.2	4,263	1,534,871	1,539,134	839	5	天台宗の寺院妙法院の境外仏堂	蓮華王院
知恩院	7.2	6.9	10,959	6,021,900	6,032,859	317	4	浄土宗総本山	華頂山知恩教院大谷寺
平安神宮	6.4	6.1	1,216	5,183,707	5,184,923	598	6	神社本庁の別表神社、	平安神宮
大原	6.2	5.8	4,263	1,534,871	1,539,134	3,240	5	天台宗の寺院	魚山三千院、清香山寂光院
東寺	5.6	5.6	240	172,000	172,240	2,692	7	東寺真言宗総本山	八幡山教王護国寺
永観堂	5.4	n. a.	525	525	1,050	627	5	浄土宗西山禅林寺派総本山	聖衆来迎山無量寿院禅林寺
下鴨神社	5.0	5.0	76	324,494	324,570	784	5	神社本庁の別表神社、	賀茂御祖神社
東福寺	4.8	4.1	326	53,575	53,901	2,533	6	臨済宗東福寺派大本山	慧日山東福寺
龍安寺	4.3	3.7	3,438	347,887	351,325	1,832	6	臨済宗妙心寺派の寺院	大雲山龍安寺
西本願寺	3.6	3.5	19,416	6,940,799	6,960,215	700	8	浄土真宗本願寺派本山	龍谷山西本願寺
西大谷廟	3.5	n. a.	19,416	6,940,799	6,960,215	0	0	浄土真宗本願寺派宗祖親鸞の墓所、宗教法人 本願寺（通称、西本願寺）が所有する飛地境内建物	大谷本廟
大徳寺	3.5	n. a.	207	97,952	98,159	1,065	7	臨済宗大徳寺派大本山	龍寶山大徳寺
東本願寺	3.4	3.3	17,502	3,269,542	3,287,044	354	5	真宗大谷派本山	真宗本廟
伏見稲荷大社	3.4	3.1	816	3,479,234	3,480,050	1,293	5	単立神社、稲荷神社（主祭神として祀る、全国に2,970社）の総本社	伏見稲荷大社
華厳寺（鈴虫寺）	3.1	n. a.	24	749	773	234	5	臨済宗の単立寺院	妙徳山華厳寺
北野天満宮	3.1	n. a.	1,086	4,630,778	4,631,864	914	6	神社本庁の別表神社、菅原道真公を祀った神社（3,953社）の総本社	北野天満宮
高雄・横尾・梅尾	2.9	n. a.	6,126	3,934,900	3,941,026	1,328	4	高野山真言宗遺迹本山、真言宗系の単立寺院	高雄山神護寺、梅尾山高山寺
天龍寺	2.9	n. a.	91	89,850	89,941	3,801	13	臨済宗天龍寺派大本山	霊龜山天龍寺
仁和寺	2.5	n. a.	1,157	1,138	2,295	666	7	真言宗御室派総本山	大内山仁和寺
青蓮院	2.3	n. a.	4,263	1,534,871	1,539,134	323	4	天台宗の寺院	青蓮院（山号はなし）
二条城	10.9	8.8	0	0	0	3,117	9		
京都駅ビル	8.5	7.2	0	0	0	5,329	7		
京都御所	6.1	5.4	0	0	0	1,002	6		
錦市場	3.1	3.1	0	0	0	3,744	9		

注：仁和寺の信者数：平成21年12月31日現在の数値

東寺の信者数：平成7年12月31日現在の数値（参考、教師数：平成7年＝247人、平成22年＝240人）

伏見稲荷大社、北野天満宮、下鴨神社、平安神宮、八坂神社、貴船神社の教師数と信者数は、神社本庁の数値を参考にして算出。

華厳寺（鈴虫寺）の教師数と信者数は、臨済宗で信者数が最小である臨済宗国泰寺派の教師数と信者数を使用。

n.a：入手不可。

出所：来訪者比率＝京都市産業観光局『京都市観光調査年報』より作成。（2001年～2010年）

教師数、信者数＝文化庁文化部宗教課『宗教統計調査結果—平成22年12月31日現在—』より作成。

ガイドブック掲載＝『詳細地図で歩きたい町京都』（JTBパブリッシング）、『るるぶ京都』JTBパブリッシング、『まっふる京都』（K&Bパブリッシャーズ）より作成。